



中南米地域におけるジカウイルス感染症
被害に対応するための緊急無償資金協力
についての共同記者会見冒頭 在グアテ
マラ日本大使 川原英一 挨拶

(2016年7月5日10時30分～ 於・グアテマラ赤十字事務所)

国際赤十字赤新月社連盟当地代表ソベラニス氏、
メディアの皆様、

おはようございます。



本日、本件緊急無償資金協力についての
記者会見に出席でき、嬉しく思います。

2016年2月、日本政府は、国際赤十字・赤新月社連盟を通じて、グアテマラ、コロンビア、エルサルバドルといった中南米地域3か国に対し、約20万ドルの緊急無償資金協力を実施しました。そのうち、グアテマラには約6万ドルの資金が拠出され、ボランティア研修や殺虫剤など、グアテマラ赤十字が実施するジカ・ウィルス感染症対策のために使用予定です。



日本政府は、中南米地域でのジカ・ウィルス感染症の深刻化が懸念されることを踏まえ、主に中南米地域に対し、感染状況の情報収集、妊産婦へのケア、感染予防啓発活動、水・衛生環境改善等の分野で支援を行って参ります。ここ、グアテマラでも感染者数の増加が報告されています。喫緊の対応が必要です。



日本政府が、5月末に開催された伊勢志摩G7首脳サミットで発表した「国際保健のためのG7伊勢志摩ビジョン」で言及したように、公衆衛生上の緊急事態への対応強化のための取組を重視しています。エボラ出血熱やジカウイルス感染症のような感染症が国境を容易に越える危険性が増加しています。感染症危機時の国際連携を含め、感染症に対する予防、効果的・効率的な対応を国際関連機関が一体となって取り組むことが大切です。



日本は、これまでも国際保健分野での貢献を重視してきましたが、今後も、公衆衛生対応の強化に向けた取り組みを促進します。今回のグアテマラ赤十字を通じた援助も、そうした我が国政府の取り組みの一環として行われているものです。



グアテマラでは雨季が始まり、今後、益々ジカウイルス感染者数が増加することも心配されます。今回の日本からの支援が、大いに活用されて、グアテマラでのジカウイルス感染症の削減に寄与することを心から願っております。
(了)

